

情報センサー

◆エンディングノート講座

葬祭業のむさしセレモニー（南陽市）が主催する「エンディングノート（私の安心ノート）の書き方講座」が13日、同市のワトワセンター南陽で開かれ、60～70代の受講者28人が人生の最期に備えるための知識を学んだ＝写真。



NPO法人やまがた市民後見サポートセンター（山形市）の金田七夫副理事長が講師を務めた。エンディングノートは人生の終末期や介護、病気に関して、どう対応を図りたいかといった希望を家族などのために書き残すノートをいう。金田副理事長は「認知症などの深刻な事態となる前に、書き記して自分の意思を表示しておくことが大切だ」と解説。その上で「自分の生い立ちや健康状態、資産状況などをできるだけ具体的に書いてほしい」とアドバイスした。